

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 沖田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

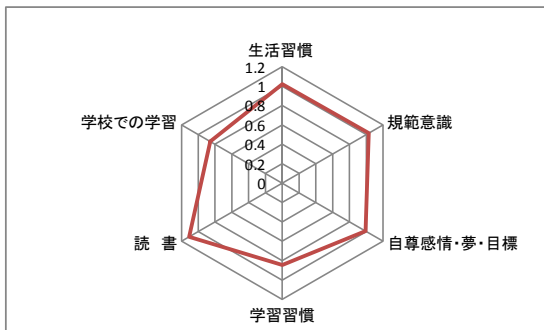
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っていたが、昨年度より上昇していた。 ・話す・聞く能力を問う問題に課題があり、グループ討議や発表などの取組が必要である。	全国平均正答率との比較 <b>同程度である</b>
	よくできた問題	・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書いたり、文章を読み返して、文の使い方などに注意して書いたりするなど、書く力を問う問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・全体と部分との関係に注意して話を構成したり、互いの発言を検討して自分の考えを広げたりするなど、話す・聞く能力を問う問題の正答率が低い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っていたが、昨年度より上昇していた。 ・文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを書く問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 <b>下回っている</b>
	よくできた問題	・目的に応じて必要な情報を読み取る問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題は正答率が低く、また無解答率も高かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率とほぼ同程度である。 ・関数領域における一次関数のグラフの特徴を読み取ったり、一次関数の関係を式に表したりする問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 <b>同程度である</b>
	よくできた問題	図形領域の空間における直線の位置関係や、見取図に表された立方体の角の大きさの関係を読み取るなどの問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくる問題は、正答率が低く、また無解答率が高かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、昨年度より大幅に上昇していた。 ・条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、 $x$ の値に対応する $y$ の値を求める問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 <b>下回っている</b>
	よくできた問題	適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現する問題は正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・生活習慣や規範意識に関するアンケートでは肯定的な回答の割合が全国平均よりも上回っている。就寝・起床時間の安定や授業に臨む姿勢など落ち着いた生活を送れている生徒が多いことがわかる。
・学習習慣や学校での学習に関するアンケートでは全国平均を下回っている。宿題などの家庭学習や自分で計画を立てて学習をするような習慣をつける取組が必要である。
・学習において自分の考えを伝えることは苦手であったが、友達との関わりの中では、自分の意見を述べたり、最後まで話を聞いたりできる生徒の割合は高くなっている。「自分には、よいところがある」という割合も高く、自分の考えや行動に自信を持っている生徒が多いと思われる。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の終わりに「まとめ」カードや「ふりかえり」カードを活用し、本時の学習内容がより定着するよう工夫が必要である。</li> <li>・自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動を場面に応じて適切に取り入れていく必要がある。</li> <li>・グループ学習やペア学習などを取り入れ、授業形態の工夫から生徒に意欲を持たせる。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝8時30分より「黙想タイム」を実施し、一日の目標を立てて、落ち着いた学校生活を送るように指導する。</li> <li>・生活ノートに付属してある各教科の課題を毎日担任が点検している。家庭での学習習慣を定着させるためにも未提出の生徒が増えないよう呼びかけながら継続的に取り組ませていく必要がある。</li> </ul>
--